

「脱ムダ」で市政を変える！ 市政改革を前へ、前へ
小金井市議会議員／情報公開こがねい

週刊 渡辺大三 NEWS



【会派 NEWS】 2020(令和2)年 10月28日 週刊 vol.62

【ご意見ご要望はお気軽に】 〒184-0012 小金井市中町3-26-15-301

T 090-3345-6929 F 042-381-5074 watanabedaizou@gmail.com

公式サイト daizou.org (Twitter、facebook には公式サイトからアクセスできます)

中曽根元首相の内閣・自民党合同葬儀

「巨額の公金支出は再考を」

市議会が決議 賛成 15 反対 4 退席 4

10月6日、小金井市議会は、「中曽根元首相の内閣・自民党合同葬儀への巨額の公金支出に関して再考を求める決議」を賛成 15 反対 6 退席 2 の大差で可決しました。

決議案は、私が原案を作成して各会派に提示。「情報公開こがねい」「共産党」「市民力エル」の 3 会派で共同提案したものです。

決議の全文は以下の通りです。

中曽根元首相の内閣・自民党合同葬儀への巨額の公金支出に関して再考を求める決議

昨年 11 月に死去した中曽根康弘元首相の内閣・自民党合同葬儀が、10月17日に東京都内で行われる。

政府は、この合同葬儀の経費の半額に相当する9643万円を支出することを決定したが、多くの国民から「公金から巨額の支出をするのは不相当」「新型コロナウイルス感染症に苦しむ国民への支援を優先すべき」などの批判が相次いでいる。

日本国憲法は、三権分立を基本原理としており、行政の長の死去に関してのみ、かくも巨額の公金が支出されることは、憲法上も疑義がある。公的機関である内閣が、一政党と合同で葬儀を営むことにも違和感を覚える。元首相とはいえ引退すれば一私人であり、公私のけじめをつけるべきである。

また、現在、我が国は、新型コロナウイルス感染症の多大な影響を受けており、政府が提唱する「新しい生活様式」によって、国民の葬儀に関する考え方も大きく変化している。巨額の公金を使って、多くの人を呼ぶ葬儀が「新しい生活様式」にかなうものとは言えない。

い。就任に当たって「悪しき前例踏襲を打破する」と宣言した菅首相が、国民の理解を得られない「悪しき前例」にしがみついていたのでは、言行不一致の誹りを免れない。

よって小金井市議会は、中曽根元首相の内閣・自民党合同葬儀への9643万円もの公金支出に関して、国民の理解を得られる在り方とすべく、再考を求めるものである。

以上、決議する。

令和2年10月6日

小金井市議会

採決態度は以下の通りでした。

政権与党である公明党は賛成しました。政権野党である立憲民主党の鈴木議員と岸田議員は議決態度が分裂しました。

○賛成⇒情報公開こがねい(渡辺大三)、公明党(宮下・紀・渡辺ふき子・小林)、みらいのこがねい(鈴木・村山)、共産党(板倉・水上・たゆ)、こがおも(白井・水谷)、ネット(田頭)、市民力エル(片山)、緑つながる(坂井)。

×反対⇒自民党信頼(遠藤・湯沢・吹春・清水)。

▲退席⇒みらいのこがねい(岸田・沖浦)、市民会議(齊藤)、改革連合(篠原)。

*五十嵐議長(自民党信頼)は採決に加わらない。

日本学術会議会員候補の任命拒否問題

すが

「菅首相に抗議し、撤回を求める」

市議会が意見書可決 賛成 11 反対 6 退席 6

10月6日、小金井市議会は、「菅義偉首相による日本学術会議会員候補の任命拒否について抗議し、撤回を求める意見書」を、賛成 11、反対 6、退席 6、で可決しました。

意見書案は、「情報公開こがねい」「共産党」「こがおも」「ネット」「市民力エル」「緑つながる」の 6 会派で共同提出したものです。

意見書の要旨は以下の通りです。

菅義偉首相による日本学術会議会員候補の任命拒否について抗議し、撤回を求める意見書

日本学術会議の会員は 210 人で任期は 6 年。3 年ごとに半数が改選される。同会議は今回の改選に当たり、105 人の推薦者を 8 月 31 日に内閣府に提出したが、総会直前の 9 月 28 日夜に、任命しない理由を言わず 6 人が推薦名簿から外された。任命拒否された推薦者の中には、「安保関連法案」や「共謀罪法案」に異を唱える人物も含まれている。

日本学術会議は、約 87 万人の日本の科学者を内外に代表する国の機関であり、当時の吉田茂首相も「日本学術会議はもちろん国の機関ではありますが、その使命達成のためには、時々の政治的便宜のための制肘を受けることのないよう、高度の自主性が与えられておる」と言明している。

(制肘(せいちゆう)＝わきから干渉して人の自由な行動を妨げること。)

1983 年に会員の公選制から推薦制に変えた法改定の際の国会答弁でも、当時の総理府総務長官が、「ただ形だけの推薦制であって、学会の方から推薦をしていただいた者は拒否しない。そのとおりの形だけの任命をしていく」と参議院文教委員会でも答弁した。

これらに照らしても、今回の任命拒否は、正に日本学術会議法に反し、憲法 23 条の「学問の自由」を脅かす違憲、違法の行為だと言わざるをえない。

よって、小金井市議会は、政府に対し、今回の日本学術会議の改選による推薦名簿から 6 人を

任命拒否したことについて、厳しく抗議するとともに、以下の事項を強く求めるものである。

- 1 任命拒否の経過と理由を国民に説明すること。
- 2 任命拒否を直ちに撤回し、推薦された 6 人を改めて任命すること。

以上、地方自治法第 99 条の規定により意見書を提出する。

採決態度は以下の通りでした。

政権与党である公明党は反対せず、退席しました。政権野党である立憲民主党の鈴木議員と岸田議員は議決態度が分裂しました。

○賛成⇒情報公開こがねい(渡辺大三)、みらいのこがねい(鈴木・村山)、共産党(板倉・水上・たゆ)、こがおも(白井・水谷)、ネット(田頭)、市民力エル(片山)、緑つながる(坂井)。

×反対⇒自民党信頼(遠藤・湯沢・吹春・清水)、市民会議(斉藤)、改革連合(篠原)。

▲退席⇒公明党(宮下・紀・渡辺ふき子・小林)、みらいのこがねい(岸田・沖浦)。

*五十嵐議長(自民党信頼)は採決に加わらない。

◆渡辺大三略歴◆

1966年5月2日、岩手県水沢市(現:奥州市)生まれ。秋田県横手市、宮城県仙台市、山形県山形市を経て、9歳から小金井市在住。小金井市立本町小学校・小金井市立小金井第一中学校(桜町)、東京都立小金井北高等学校(緑町)、中央大学法学部を卒業。株式会社河北新報社(本社:仙台市)に就職し、新聞記者。衆議院議員秘書を経て、男性最年少の26歳で小金井市議選初当選(以降7期連続当選/最近4回の選挙はいずれも無所属で立候補)。

【現在】小金井市の地域政党「情報公開こがねい」共同代表。東京の地域政党「自由を守る会」幹事長。小金井市商工会参与。貫井北町商工振興会事務局長。中町親愛会相談役。中央大学学生会小金井支部副支部長。小金井北高等学校同窓会幹事長。